

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101549		
法人名	社会福祉法人共和会		
事業所名	グループホーム広瀬の郷	ユニット名	いきいきユニット
所在地	仙台市青葉区大倉字大原新田26-12		
自己評価作成日	令和 4年 10月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな立地にあり緑が多く、季節の流れを感じながら穏やかに生活することができる。 ・併設した特別養護老人ホームとの協力体制にて、日々の食事や健康面でのサポートを受けることができる。 ・重度化した際の併設施設への転居の際は情報の共有や継続した支援等、スムーズな援助を行うことが出来る。 ・生活保護受給者の入居に関して受け入れ態勢が行えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年11月 29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して19年目の「グループホーム広瀬の郷」は、仙山線熊ヶ根駅より定義山方面徒歩15分、桜や紅葉など豊かな自然に囲まれている。直近には水道記念館があり、青下川が流れる公園になっている。ホームの敷地内には同法人特別養護老人ホームが併設されており、消防避難訓練の際には協力隊員として職員の協力体制がある。法人理念「敬い、寄り添い、心やすらぐケアを、向上心をもって」を基に、残存能力を活かすことに心がけ、一人ひとりに寄り添った支援をしている。外出制限の中、庭の散歩やゲーム、行事食を工夫するなど、毎日穏やかに楽しく過ごせるように努めている。コロナ感染防止対策を図りながら面会を実施している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム広瀬の郷)「ユニット名 いきいき 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議にて周知行い、念頭に置いたケアを行うよう意識付けを行った。	理念について皆で話し合い、原点に戻ることを念頭に置いて、法人の基本理念をホームの理念にすることを決めた。管理者は「一人ひとり個人を意識して支援しましょう」と声掛けし、日々のケアに励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域交流は行えていない。地域の職員が多く、地域の話提供等にて地域とのつながりを感じて頂いている。	町内会に加入し、回覧や市政便りで情報を得ている。地元出身の職員が多く、入居者の知人のことなど情報を得ることが出来る。ホーム前に来る市の移動図書館を、継続して利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ならば推進会議の場を活用するが、コロナ禍により開催できず行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により会議開催できず、各委員の方々に書面にて報告を行っている。	会議は、地域包括職員や町内会長6名、民生員4名で構成されている。ホームの利用状況や行事などの生活様子を書面で報告している。報告に留まらずメンバーから意見や感想を求めるよう工夫していただきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	仙台市の担当者や大沢広陵地域包括支援センターの職員と密に連携をとり協力関係を築いている。	市が開催する認知症の基礎研修に参加している。補助食の食費の取り扱いについてなど相談している。地域包括センターに、空き室情報の提供や退居後の支援サービスについて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍により委員会等開催できず、書面等にて身体拘束についての知識や意識付けを行った。日頃のケアの中で意識をもって身体拘束のないケアを心掛けている。	参考資料を職員に配布し、身体拘束しないことを意識してケアするようにしている。「家から持ってくる物がある」と外出しようとする方には、「仕事が終わってから一緒に行こう」と話している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍により委員会等開催できず、書面等にて虐待防止についての知識や意識付けを行った。また、声掛け等虐待に繋がるような対応にならないよう、職員間での注意を意識した。	高齢者虐待・不適切なケアの背景を資料で学び、早期に虐待の芽を摘む事の重要性を再確認している。一人の職員だけにストレスがかからないよう職員同士助け合っている。管理者は職員のストレスに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を作ることはできなかったが、個々の必要性について検討し制度の活用が必要であれば地域包括支援センターへ相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書と重要事項説明書の説明を行い、理解・納得を得るようにしている。その他、常時疑問等には対応を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的な質問票の送付等にて、ご家族からの意見の聞き取りを行っている。	6カ月に1回ケアプランの送付時の質問票から、布団の交換の声に対応した。受診や体調の変化など家族に連絡した際に、要望を聞いている。「服薬が気になる」との話から、医師に確認し変更となった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや、各種会議、定期的な面談等にて意見や提案の機会を設けている。	職員アンケートから職場の悩みを把握し、配置替えて対応した。職員の研修には、費用の助成や勤務扱いで支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が主任、ユニットリーダーより各職員の勤務状況や様子等聞き取り・報告を受け、必要に応じて施設長へ相談、報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修には参加できていない。内部研修としては全体で集まることも困難であったため、資料の提示等にて知識向上を目指した。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により外部との交流は行っていない。	新入居者の受け入れの際に、前施設と連携を取り合っている。重度化した入居者については、同法人の特別養護老人ホームに相談するなど連携を密にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の実態調査にて得た情報やケアプラン等にて、ご本人様の様子や要望についての把握を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の説明や、施設に対する要望等を聞き取りケアプラン等に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査にてご本人様やご家族様が望まれるサービスの導入について検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食事の盛り付け、食器洗いや掃除等、職員と共に行う等している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会や外出、外来等での協力をお願いしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや外出の支援等行っている。	家族からの国際電話の対応や日曜礼拝をリモートで支援している。家族や知人の面会は、コロナ予防対策を万全にし、外から直接居室に入り、10分以内の面会をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両ユニット合同のレクリエーションの開催や、塗り絵、制作等利用者同士の関わりの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の支援や相談についてのお声がけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングを行っている。他、利用者様のご希望を取り入れた行事食や外出の支援を行っている。	入居者の嗜好に合わせて、代替食にも工夫している。本人の立ち上がる様子から、自立歩行したい思いを把握し、食事摂取に力を入れて達成した。ケーキや餃子が食べたいなどの希望に対応した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査による状況の把握や、入所前の担当ケアマネジャー、利用事業所等より情報の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングとADLの見直しにて把握を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーによる家族・本人モニタリングと、担当職員モニタリングをもとにケアプラン原案が作成され、カンファレンスが行われている。	計画は6か月毎に見直しをしている。排便の状況に合わせ、主治医の指示のもと下剤の調整をプランに入れた。状態の変化に合わせその都度プランを見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ケース記録に介護計画が添付されている。また、介護計画のサービス内容に基づいた個別記録の記入が行われている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外来対応や銀行への付き添い等、状況に応じたサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて外部との接触が行えていないが、必要に応じて地域資源を活用し生活を支えていく柔軟な対応の体制工夫を心がけている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他、継続的な専門外来への支援等を行っている。また、外来対応後はご家族へ報告を行っている。	専門医以外は協力医がかかりつけ医になっている。受診の際は職員が同行し、その都度家族に報告している。インフルエンザやコロナウイルスワクチン接種は協力医の協力を得て実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師への相談や、同法人内の看護師への情報共有と相談が行える体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は入院先の病棟看護師や地域連携室と情報交換を行っている。また、退院調整時には実態調査を行い病院側と連絡調整を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご状態の変化についての説明や、介護認定区分変更のご理解、特養への申込等利用者様のご状態に合った対応の必要性について状況に合わせて支援を行っている。	「重度化ご利用者様に関する指針」があり、入居時に説明している。看取りは行っていない。食欲の低下や座位が困難になった場合、医師・家族と話し合い、病院や施設利用などの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として年2回急変や事故発生時についての研修を行うようにしている。今年度はコロナ禍により資料提示となっている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを策定し、年2回の消防避難訓練時も地域の方々と協力して行い地域全体での対策を図っている。	コロナ禍のため地域住民の参加はない。夜間想定避難訓練を2回実施している。敷地内の特養ホーム職員が協力している。反省点として、消火器の場所確認や声掛けが小さいなどがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係を築きながら、個々に寄り添ったお声がけを心掛け対応している。	入室の際は、ノックをして本人に確認することを職員間で共有している。排泄の有無や失禁時等は周囲に聞こえないよう配慮し、耳元で小声で居室やトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションや定期的なモニタリング等にてご本人様の希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれのペースに合わせた支援が行えるように職員間が協力し合いながら本人の希望にこたえられるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合ったおしゃれや身だしなみができるよう、ご本人様のご希望に併せて洋服や化粧品を準備して支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回は行事食として献立をご利用様と一緒に考えて一緒に調理して食事を楽しめる支援を行っている。	行事食は入居者の希望を受けて、献立を立てている。誕生会にはアイスの希望があったり、麺や餃子等、職員が買い出し調理し、盛り付けや片付けを一緒にしている。献立は法人栄養士が作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握を行い、特養の管理栄養士やかかりつけ医院の医師、看護師にアドバイスをいただきながら栄養や水分量が確保できるように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを自分でできる方は自分で行って頂き、できない方はこちらで介助するなどして口腔内の衛生を保つように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレへのお声がけやご状態に合わせた排泄用品の使用、検討を行っている。	全員がチェック表を基に、声掛けすることでパッドが不要になったり、自立歩行が出来るようになるなど改善する入居者が多い。夜間の排便チェックは、ベッドにセンサーをつけて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、下剤の調整や運動の声掛け、水分摂取の工夫等を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	決められた入浴日以外でも臨機応変に対応できるようにしている。	入浴は週2回午前としている。入浴を拒否する入居者には、「洗濯するので着替えましょう」や「薬を塗るから」等と風呂の脱衣所に誘い、「ついでに入っていきませんか」など声掛けに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご状態に合わせて休息の声掛けや、夜間心地よく休むことが出来るよう日中の運動の声掛け等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の説明書をケースファイルに綴じ、いつでも確認が行えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的なモニタリングにてやってみようこと、の聞き取りを行い、日々の生活の中に取り入れるようにしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は行えていないが、基本のご希望に合わせた外出支援が行える体制としている。	職員との受診時は、買い物や遠回りして懐かしい場所を通るなど、工夫している。プランターにきゅうりやトマトを植えるなど、外に出る工夫をしている。天気の良い日は、周辺を散歩しながら落の臺を摘んだり、栗拾いをするなど楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理能力がある方に関しては希望によってご自分で管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によってご家族や大切な方への電話の取次ぎや手紙の投函などの支援を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物の作成や花を飾る等にて過ごしやすい環境づくりに努めている。	壁に桜や花火、紅葉、クリスマスなど季節感のある皆で作ったちぎり絵を貼っている。日めくりカレンダーを剥がすことを日課にする入居者がいる。ホールでは、ボーリングやユニット合同のレクリエーションなどの活動をしている。定時で窓を開けて換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなく廊下のソファで自由に休めるように居場所づくりを行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は在宅時に使用していた使い慣れた家具や食器等の持ち込みをお願いしている。	居室には布団やテーブル、仏具、ゴルフバックなどを置いている。テレビを観たり、読書や折り紙をしたり、新聞購読する等、本人の好きなように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大文字のカレンダーや、掲示物の工夫等にて安心したお気持ちで生活できるよう工夫を心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101549		
法人名	社会福祉法人共和会		
事業所名	グループホーム広瀬の郷	ユニット名	ゆうゆうユニット
所在地	仙台市青葉区大倉字大原新田26-12		
自己評価作成日	令和 4年 10月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな立地にあり緑が多く、季節の流れを感じながら穏やかに生活することができる。 ・併設した特別養護老人ホームとの協力体制にて、日々の食事や健康面でのサポートを受けることができる。 ・重度化した際の併設施設への転居の際は情報の共有や継続した支援等、スムーズな援助を行うことが出来る。 ・生活保護受給者の入居に関して受け入れ態勢が行えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年11月 29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して19年目の「グループホーム広瀬の郷」は、仙山線熊ヶ根駅より定義山方面徒歩15分、桜や紅葉など豊かな自然に囲まれている。直近には水道記念館があり、青下川が流れる公園になっている。ホームの敷地内には同法人特別養護老人ホームが併設されており、消防避難訓練の際には協力隊員として職員の協力体制がある。法人理念「敬い、寄り添い、心やすらぐケアを、向上心をもって」を基に、残存能力を活かすことに心がけ、一人ひとりに寄り添った支援をしている。外出制限の中、庭の散歩やゲーム、行事食を工夫するなど、毎日穏やかに楽しく過ごせるように努めている。コロナ感染防止対策を図りながら面会を実施している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム広瀬の郷)「ユニット名 ゆうゆう 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議にて周知行い、念頭に置いたケアを行うよう意識付けを行った。	理念について皆で話し合い、原点に戻ることを念頭に置いて、法人の基本理念をホームの理念にすることを決めた。管理者は「一人ひとり個人を意識して支援しましょう」と声掛けし、日々のケアに励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域交流は行えていない。地域の職員が多く、地域の話題提供等にて地域とのつながりを感じて頂いている。	町内会に加入し、回覧や市政便りで情報を得ている。地元出身の職員が多く、入居者の知人のことなど情報を得ることが出来る。ホーム前に来る市の移動図書館を、継続して利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ならば推進会議の場を活用するが、コロナ禍により開催できず行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により会議開催できず、各委員の方々に書面にて報告を行っている。	会議は、地域包括職員や町内会長6名、民生員4名で構成されている。ホームの利用状況や行事などの生活様子を書面で報告している。報告に留まらずメンバーから意見や感想を求めるよう工夫していただきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	仙台市の担当者や大沢広陵地域包括支援センターの職員と密に連携をとり協力関係を築いている。	市が開催する認知症の基礎研修に参加している。補助食の食費の取り扱いについてなど相談している。地域包括センターに、空き室情報の提供や退居後の支援サービスについて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍により委員会等開催できず、書面等にて身体拘束についての知識や意識付けを行った。日頃のケアの中で意識をもって身体拘束のないケアを心掛けている。	参考資料を職員に配布し、身体拘束しないことを意識してケアするようにしている。「家から持ってくる物がある」と外出しようとする方には、「仕事が終わってから一緒に行こう」と話している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍により委員会等開催できず、書面等にて虐待防止についての知識や意識付けを行った。また、声掛け等虐待に繋がるような対応にならないよう、職員間での注意を意識した。	高齢者虐待・不適切なケアの背景を資料で学び、早期に虐待の芽を摘む事の重要性を再確認している。一人の職員だけにストレスがかからないよう職員同士助け合っている。管理者は職員のストレスに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を作ることはできなかったが、個々の必要性について検討し制度の活用が必要であれば地域包括支援センターへ相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書と重要事項説明書の説明を行い、理解・納得を得るようにしている。その他、常時疑問等には対応を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的な質問票の送付等にて、ご家族からの意見の聞き取りを行っている。	6か月に1回ケアプランの送付時の質問票から、布団の交換の声に対応した。受診や体調の変化など家族に連絡した際に、要望を聞いている。「服薬が気になる」との話から、医師に確認し変更となった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや、各種会議、定期的な面談等にて意見や提案の機会を設けている。	職員アンケートから職場の悩みを把握し、配置替えて対応した。職員の研修には、費用の助成や勤務扱いで支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が主任、ユニットリーダーより各職員の勤務状況や様子等聞き取り・報告を受け、必要に応じて施設長へ相談、報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修には参加できていない。内部研修としては全体で集まることも困難であったため、資料の提示等にて知識向上を目指した。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により外部との交流は行っていない。	新入居者の受け入れの際に、前施設と連携を取り合っている。重度化した入居者については、同法人の特別養護老人ホームに相談するなど連携を密にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の実態調査にて得た情報やケアプラン等にて、ご本人様の様子や要望についての把握を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の説明や、施設に対する要望等を聞き取りケアプラン等に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査にてご本人様やご家族様が望まれるサービスの導入について検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食事の盛り付け、食器洗いや掃除等、職員と共に行う等している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会や外出、外来等での協力をお願いしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや外出の支援等行っている。	家族からの国際電話の対応や日曜礼拝をリモートで支援している。家族や知人の面会は、コロナ予防対策を万全にし、外から直接居室に入り、10分以内の面会をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両ユニット合同のレクリエーションの開催や、塗り絵、制作等利用者同士の関わりの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の支援や相談についてのお声がけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングを行っている。他、利用者様のご希望を取り入れた行事食や外出の支援を行っている。	入居者の嗜好に合わせて、代替食にも工夫している。本人の立ち上がる様子から、自立歩行したい思いを把握し、食事摂取に力を入れて達成した。ケーキや餃子が食べたいなどの希望に対応した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査による状況の把握や、入所前の担当ケアマネジャー、利用事業所等より情報の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングとADLの見直しにて把握を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーによる家族・本人モニタリングと、担当職員モニタリングをもとにケアプラン原案が作成され、カンファレンスが行われている。	計画は6か月毎に見直しをしている。排便の状況に合わせ、主治医の指示のもと下剤の調整をプランに入れた。状態の変化に合わせその都度プランを見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ケース記録に介護計画が添付されている。また、介護計画のサービス内容に基づいた個別記録の記入が行われている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外来対応や銀行への付き添い等、状況に応じたサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて外部との接触が行えていないが、必要に応じて地域資源を活用し生活を支えていく柔軟な対応の体制工夫を心がけている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他、継続的な専門外来への支援等を行っている。また、外来対応後はご家族へ報告を行っている。	専門医以外は協力医がかかりつけ医になっている。受診の際は職員が同行し、その都度家族に報告している。インフルエンザやコロナウイルスワクチン接種は協力医の協力を得て実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師への相談や、同法人内の看護師への情報共有と相談が行える体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は入院先の病棟看護師や地域連携室と情報交換を行っている。また、退院調整時には実態調査を行い病院側と連絡調整を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご状態の変化についての説明や、介護認定区分変更のご理解、特養への申込等利用者様のご状態に合った対応の必要性について状況に合わせて支援を行っている。	「重度化ご利用者様に関する指針」があり、入居時に説明している。看取りは行っていない。食欲の低下や座位が困難になった場合、医師・家族と話し合い、病院や施設利用などの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として年2回急変や事故発生時についての研修を行うようにしている。今年度はコロナ禍により資料提示となっている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを策定し、年2回の消防避難訓練時も地域の方々と協力して行い地域全体での対策を図っている。	コロナ禍のため地域住民の参加はない。夜間想定避難訓練を2回実施している。敷地内の特養ホーム職員が協力している。反省点として、消火器の場所確認や声掛けが小さいなどがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係を築きながら、個々に寄り添ったお声がけを心掛け対応している。	入室の際は、ノックをして本人に確認することを職員間で共有している。排泄の有無や失禁時等は周囲に聞こえないよう配慮し、耳元で小声で居室やトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションや定期的なモニタリング等にてご本人様の希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれのペースに合わせた支援が行えるように職員間が協力し合いながら本人の希望にこたえられるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合ったおしゃれや身だしなみができるよう、ご本人様のご希望に併せて洋服や化粧品を準備して支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回は行事食として献立をご利用者様と一緒に考えて一緒に調理して食事を楽しめる支援を行っている。	行事食は入居者の希望を受けて、献立を立てている。誕生会にはアイスの希望があったり、麺や餃子等、職員が買い出し調理し、盛り付けや片付けを一緒にしている。献立は法人栄養士が作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握を行い、特養の管理栄養士やかかりつけ医院の医師、看護師にアドバイスをいただきながら栄養や水分量が確保できるように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを自分でできる方は自分で行って頂き、できない方はこちらで介助するなどして口腔内の衛生を保つように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレへのお声がけやご状態に合わせた排泄用品の使用、検討を行っている。	全員がチェック表を基に、声掛けすることでパッドが不要になったり、自立歩行が出来るようになるなど改善する入居者が多い。夜間の排便チェックは、ベッドにセンサーをつけて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、下剤の調整や運動の声掛け、水分摂取の工夫等を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	決められた入浴日以外でも臨機応変に対応できるようにしている。	入浴は週2回午前としている。入浴を拒否する入居者には、「洗濯するので着替えましょう」や「薬を塗るから」等と風呂の脱衣所に誘い、「ついでに入っていきませんか」など声掛けに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご状態に合わせて休息の声掛けや、夜間心地よく休むことが出来るよう日中の運動の声掛け等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の説明書をケースファイルに綴じ、いつでも確認が行えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的なモニタリングにてやってみようこと、の聞き取りを行い、日々の生活の中に取り入れるようにしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は行えていないが、基本のご希望に合わせた外出支援が行える体制としている。	職員との受診時は、買い物や遠回りして懐かしい場所を通るなど、工夫している。プランターにきゅうりやトマトを植えるなど、外に出る工夫をしている。天気の良い日は、周辺を散歩しながら落の臺を摘んだり、栗拾いをするなど楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理能力がある方に関しては希望によってご自分で管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によってご家族や大切な方への電話の取次ぎや手紙の投函などの支援を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物の作成や花を飾る等にて過ごしやすい環境づくりに努めている。	壁に桜や花火、紅葉、クリスマスなど季節感のある皆で作ったちぎり絵を貼っている。日めくりカレンダーを剥がすことを日課にする入居者がいる。ホールでは、ボーリングやユニット合同のレクリエーションなどの活動をしている。定時で窓を開けて換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなく廊下のソファで自由に休めるように居場所づくりを行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は在宅時に使用していた使い慣れた家具や食器等の持ち込みをお願いしている。	居室には布団やテーブル、仏具、ゴルフバックなどを置いている。テレビを観たり、読書や折り紙をしたり、新聞購読する等、本人の好きなように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大文字のカレンダーや、掲示物の工夫等にて安心したお気持ちで生活できるよう工夫を心掛けている。		